

あけぼの大豆（身延町曙地区）

1 地域の概要・栽培の歴史

身延町曙地区で栽培されていた大豆で、その起源は明治時代に関西地方から導入されたものと言われている。粒を十粒並べると六寸になるほど粒が大きいことから、「十六寸」という名称が使われていた。

特徴としては粒が大きいことと、甘みが強く味の良いたことがあげられる。枝豆として出荷されるようになったのは昭和45年頃からで、以降面積を増やしてきたが、近年では収穫出荷に労力がかかることから出荷量が減少している。



2 セールスポイント

一般的な品種と比較すると、大粒で食べ応えがあり、甘み・コクが強く風味に優れる。

3 出荷時期

10月中旬～11月上旬